



www.yokohamaymca.org/
AIDS/

つながる つながる

2002 (第9回) AIDS文化フォーラムin横浜 報告書

2002年夏 フォーラムは燃えた!

1994年から始まった「AIDS文化フォーラムin横浜」(第9回)が、2002年度も無事開催されましたことを、皆様方に感謝申し上げます。

2002年フォーラムは、9年間のフォーラムの歴史のなかでも特筆する年となりました。マンネリ化打破のため、多くの特徴的なプログラムを企画しました。

ひとつめは、国際をテーマにしたプログラムが増えたことです。オリンピック銀メダリストでハート・オブ・ゴールド代表の有森裕子さんがカンボジアのエイズについてお話をして下さいました。また、プログラムのわかりやすさを目指し、休憩時間にエイズの基礎講座を実施し、高校生などを中心に5回の講座は予想以上の方々の参加を得ることができました。

教育についても多くの取り組みが発表され、PWA/H・高校生・教員・医師等でエイズ教育について考えるプログラム、養護教諭のつどい、若者からの性教育の提案など、多方面からのアプローチがあり、教育関係者の参加



も増えてきました。

閉会式では「From 横浜 to神戸にむけて」と題し、2003年11月に神戸で行なわれる第7回アジア太平洋地域エイズ国際会議の運営委員から進行状況の報告がされました。

■目次

2002年の特徴	p.2
プログラム一覧	p.4
参加団体報告(発表)	p.6
参加団体報告(展示)	p.18

データ

・新聞掲載記事	p.20
・9年の歩み	p.23

フォーラムの考え方	p.24
フォーラムを支えた人たち	p.25
2003年予告	p.26

■開催概要

- ◇名称:2002 AIDS文化フォーラムin横浜(第9回)
- ◇期間:8/2(金)~8/4(日)
- ◇テーマ「つながる つながる」
- ◇場所:かながわ県民センター(展示場、ホール、3・4階会議室)
- ◇組織:組織委員長(山根誠之) 運営委員長(矢部尚美)

- ・組織委員会(横浜商工会議所、横浜いのちの電話、横浜青年会議所、横浜YWCA、横浜YMCA)
- ・運営委員会(医師、保健師、教師、大学生、NPO代表者などのボランティアで構成、約15名)
- ・事務局(横浜YMCA 高橋亮 大江浩)



え?! なんでマラソンの有森裕子さんが...AIDSフォーラムに?



■2002年の特徴 充実のフォーラム

夏の恒例行事として定着した「AIDS文化フォーラム」ですが、継続は「力」、されど「マンネリ」を生む原因でもありました。2001年のフォーラム後、組織委員、運営委員の中からそのような声があがり、企画段階から「新しいフォーラム」を探しながらの取り組みとなりました。

2002年フォーラムの特徴は、運営委員会からの積極的提案型フォーラムであったと思います。フォーラムの原点は、「持ち寄り手弁当形式」です。しかしマンネリ打破のためには、社会の状況を見極め、より運営委員会からの企画提案をしていこうということになりました。その甲斐あって、オーブ

ニングはカンボジアでエイズ支援を行う「有森裕子さん」をお招きすることができ、エイズは国際的な課題として捉えなければならない、という視点から、積極的に国際協力関係のNGOに呼び掛け、多くのグループに新規参加していただきました。また2003年に神戸で行われるエイズ国際会議に向けてのジョイント企画なども行われ、幅広い広がりを見せることができました。

結果として、社会的関心が薄れていく中で、過去最大の参加プログラム数。そして過去2番目に多い参加者数となりました。

有森さんパワーで始まる

オープニングを飾ったのは、オリンピックメダリストの有森裕子さん。「え?! なんで有森さんが...?」と思った方も多いと思います。実は、有森さんはNGO「ハート・オブ・ゴールド」の代表で、チャリティのマラソン大会などを主催して、カンボジアの地雷被災者を支援する活動を続けてきました。そしてカンボジアはアジアでエイズが急速に広がる国。昨年からは、国連大使に任命され、エイズの支援を始めたばかり、という旬な方だったのです。

カンボジアのエイズセンターを訪れた際の

説明をしながら、日本の若者の性に対する意識の低さなどにも言及しました。

お話しは、講演形式ではなく、より会場と一体化したいと考え、ボランティア代表のフォーラムではおなじみのパトリックさんと医師の岩室紳也さんと一緒に並んで、会場からの質問とやりとりが飛び交うなど、エイズという深刻な課題を扱いつつ、フレンドリーで希望にあふれたフォーラムのオープニングをつくることができました。

よりわかりやすくー基礎講座、おゴリーー

たくさんの方々にフォーラムを利用して欲しいと願い、プログラムのカテゴリー分けを行いました。これにより、寄せ集めの、などの従来の欠点を解消しました。(医療、国際、教育、PWA、若者、社会問題、人権、セクシャリティ)

また、エイズ基礎講座を、プログラムのとプロ

グラムの間の休憩時間に設け、中学高校生やエイズ/HIVの基礎を知りたい人のコーナーとし、大盛況となりました。(HIVとエイズの違い、予防編、コンドーム装着法…)

国際的な視野で ー多くの国際NGOが参加ー

積極的に国際NGO団体に参加を呼び掛け、様々な国や地域、そして在日外国人へのエイズに対する取り組みが報告されました。手弁当型が基本のフォーラムでしたが、こちらから参加をお願いするという新しい試みでした。今、国際協力のNGO活動は、どんな活動であれ、エイ

ズ/HIVの課題を避けては通れない状況になっています。フォーラムを通して新しいネットワークが生まれつつあります。(新規参加のNGO 国境なき医師団、AMDA、アフリカ日本協議会、JICA、ユニセフ支援団体など)



教育関係プログラムの充実

教育関係へのアプローチは2001年から強化してきました。教育委員会の後援をいただいたことを契機に、広報関係で神奈川県教育委員会を積極的に活用しました。それにより養護教諭の先生方に直接アプローチする機会なども増え、結果として教育関係者の参加が増えてきたようです。ただ、学校を通した学生、若者へのアプローチと彼らへの直接的なアプローチはまた別物です。「若者」への直接的アプローチ、そして彼らが主

体的にフォーラムの構成メンバーになってくるにはまだやらなければならない課題が多いことがわかりました。(PWA/H・高校生・教員・医師等でエイズ教育について考えるプログラム、養護教諭のつどい、若者からの性教育の提案、高校生フォーラム展示、高校生による休憩所でのお茶会など)

今、国際協力NGOは、どんな活動であれ、エイズ/HIVを避けては通れない状況になっています。

神戸に“つながる つながる”

神戸に向けてアクション

閉会式では「From 横浜 to神戸」と題し、2003年11月に神戸で行なわれる第7回アジア太平洋地域エイズ国際会議に向けて、エイズ国際会議の運営委員から進行状況の報告がされました。フォーラムはこの国際会議の開催の成功と、この会議が新たな市民

による新たな啓発活動になることを応援していこうという場になりました。



<2002 プログラム案内>

「2002 AIDS文化フォーラム in 横浜」プログラム

*入場無料

*プログラムによっては内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。

*初心者向けにエイズ基礎講座(会場は405号室)を設けました。

中学生、高校生の夏休みの課題研究、等にも活用してください。(講師:岩室紳也 北山翔子 他)

◇2002年8月1日現在の内容です。(都合によりプログラムの追加、中止、日時・教室が変更ありえます。最新情報はホームページでご確認ください)

<http://www.yokohamaimca.org/AIDS/>

■講演、発表、ワークショッププログラム

日	部屋	10:00~12:00	12:30~12:50	13:00~15:00	15:20~15:40	16:00~18:00	
			12:30~12:50	13:00~15:00	15:20~15:40		
2日 (金)	ホール	ホール	エイズ基礎講座 1	病み棄ての戻り道-あるハンセン病回復者の人生から-(伊波敏男)	エイズ基礎講座 2	セックスワーカーネットワークと HIV/STD 予防 (SWASH)	
	301 (90)	開会式		AIDSとSTD(性感染症)の模擬授業(性を語る会)		ますます Positive!!!! (パトリック&紳也)	
	303 (30)	特別講演&トーク		在日外国人医療の現状と問題点 (AMDA 国際医療情報センター)		No! 子ども買春! 子ども・若者にできることは? (佐藤信一(国際子ども権利センター))	
	304 (60)	『有森裕子が語るカンボジアのエイズ』 有森裕子 ・マラソンランナー ・国連人口基金親善大使 ・ハート・オブ・ゴールド代表理事		一緒に縫おう、ベビーキルト (ABCキルト)		性教育で困っている養護教諭のつらい (高橋かんな・荒井美恵)	
	403 (60)					産婦人科医療にはくれないために (熊手麻紀子、わたなべ ゆうこ、まつばら けい)	
	405 (30)			全体編 (12:30~12:50)		HIVとエイズの違い (15:20~15:40)	
3日 (土)	ホール	横浜ダルク 琉球太鼓 12:00~12:30	エイズ基礎講座 3	こんなエイズ教育があったらな (PWA/H・高校生・教員・医師)	エイズ基礎講座 4	PWH/Aの社会参加を考える〜今、私たちに必要なもの、そして市民としてできる事〜 (JaNP+)	
	301 (90)	これからのエイズ・性教育(新学習指導要領と総合的学習)(保健体育科 五十嵐多賀子・安藤雅敏)		若者の性行動とエイズの予防対策 (赤坂恒雄・AIDSネットワーク横浜)		STDとHIVの迅速検査 (西大條文一)	
	303 (30)	再び繰り返される被害 被害者エイズの被害者は今(薬害エイズを考える山の手の会)		生活者として感じる事、PWH/Aとして思う事 (JaNP+) (マスコミ非公開)		逃げない、隠さない、ごまかさな性教育 (はなHANA 性教育は「生」教育!)	
	304 (60)	だから KARADA~知って好きになる自分の体~ (横浜エイズ勉強会)		体験してみよう「タイの農村での参加型エイズ教育」(シェア/アーユス)		遠い声、遠い部屋〜ゲイの悩みに耳を澄ます (AGP)	
	305 (60)	HIV/AIDSの臨床最前線 (都立駒込病院 今村顕史)		アジア太平洋エイズ国際会議と NGO (神戸会議 NGO連絡会・AIDS&Society 研究会)		国境なき医師団とその取り組み (国境なき医師団)	
	306 (30)	神戸会議にユースフォーラムを!!		ネット世界を通して考える子どもの性的人権 (ECPAT/ストップ子ども買春の会)		審視さん、まだ AIDS を差別するのでPART 2 (HIV 不当解雇訴訟を考える会)	
	403 (60)	あなたはアフリカがエイズで滅びると思いますか? (アフリカ日本協議会感染症研究会)		“エイズ対策”保健所をうまく使っちゃおう! (PNY びい)		NGO・学校・保健所 etc. 一緒に継続する性教育! (PNY びい)	
	404 (30)	WYOKOの第二弾 How to make AIDS Workshops 1 (TENCAI: 鮎川葉子&吉永陽子)		WYOKOの第二弾 How to make AIDS Workshops 2 (TENCAI: 鮎川葉子&吉永陽子)		WYOKOの第二弾 How to make AIDS Workshops 3 (TENCAI: 鮎川葉子&吉永陽子)	
	405 (30)			予防編 (12:30~12:50)		コンドーム装着法 (15:20~15:40)	エイズ予防啓発一仲間から仲間へ (サークルホン)
	ネットワークキングパーティー (入場者、ボランティアと参加団体の交流を深めましょう): 8月3日(土) 18:00~ 301会議室						
4日 (日)	ホール	ホール	エイズ基礎講座 5	映画「DRUG」上映会 (神奈川県青少年協会)	ホール	全体会・開会式	
	301 (90)	若者たちは、今... 買春・性感染症・ドラッグ (水谷 修)		若者をとりまく、性と HIV/AIDS の情報環境 (CAI + 岩室紳也)		From 横浜 To 神戸 にむけて	
	302 (30)	感染後に変えた事、変わった事 (ぼーとたまがわ)		避妊薬ピル、その副作用の実態を知る (「エコロジーと女性」ネットワーク)		*2003年11月神戸で第7回アジア太平洋地域エイズ国際会議が開催されます	
	303 (30)	タイのエイズ事情とボランティアワーク (JICA タイエイズプロジェクト・YMA コースボランティア)		外国人 HIV 患者/感染者のかかえる問題 (小林国際クリニック)		当フォーラムは会議の成功と、国際会議が新たな市民による HIV/AIDS 啓発の活動の機会になることを応援します。(AIDS文化フォーラム in 横浜は1994年に横浜で開催された国際会議を契機にNPO・NGO・ボランティアの手で始められました。)	
	304 (60)	ちよっと聞けない薬の話 (ベリーグ編) (聖マリア医科大学微生物学教授 中島秀壽)		ちよっと聞けない薬の話 (アドバンス編) (聞き手:北山翔子 聖マリア医科大学 中島秀壽)			
	305 (60)	性の疑問・質問アラカルト (人間と性 教育研究協議会かみながわサークル)		AIDSにおける行政と民間の共働をめざして (エイズ予防担当)			
	306 (30)	第14回国際 AIDS 会議(シラセロナ)に参加して (HIVと人権・情報センター)		はじめての HIV 感染者の歯科治療 (サークルホン)			
	403 (60)	HIV 検査・相談マップの取り組みと検査まめ知識 (LAP)		H.I.Voice 朗読劇場一僕らとなりの HIV- (横浜市立城郷中学校演劇部、他)			
	404 (30)	学校や地域で役立つ朗読ワークショップ (H.I.Voice Act)					
	405 (30)			未来への課題 (12:30~12:50)		8/4 12~、15~の休憩時間は 舞岡高校の茶亭でおくつろぎください。(場所:1階展示場)	

■展示プログラム出展団体 (1階展示場)

- ◇横浜 AIDS 市民活動センター ◇高校生エイズフォーラム ◇AIDS&Society 研究会議・神戸会議 NGO 連絡会 ◇HIVと人権・情報センター
- ◇LAP ◇アジアの女性と子どもネットワーク ◇かみながわレッドリボンプラザ ◇国境なき医師団 ◇性を語る会 ◇奈良 HIV 情報センター
- ◇ふくいす東京 ◇横浜エイズ勉強会 ◇神奈川県衛生部保健予防課 ◇オカモト ◇アフリカ日本協議会 ◇横浜 YMCA ◇HANA ◇CAI
- ◇“人間と性”教育研究協議会かみながわサークル ◇ユニセフ・ふれきしる ◇有森裕子とハートオブゴールド

プログラム ナビ!

多くの方々に参加していただけるよう、
プログラムをカテゴリーで分けてみました。
(重なり合う領域がありますので、あくまで参考です)

■教育関係のプログラム...

- ・学校や地域で役立つ朗読ワークショップ (H.I.Voice Act)
- ・“エイズ対策”保健所をうまく使っちゃおう! (PNY びにい)
- ・AIDSとSTD (性感染症)の模擬授業 (性を語る会)
- ・性教育で困っている養護教諭のついで (高橋かな奈・荒井美恵)
- ・こんなエイズ教育があったらな (PWA/H・高校生・教員・医師)
- ・高校でのエイズ教育の進め方 (保健体育科 五十嵐多賀子・安藤晴敏)
- ・逃げない、隠さない、ごまかさない性教育 (はな HANA 性教育は「生」教育!)
- ・だから KARADA~知って好きになる自分の体~ (横浜エイズ勉強会)
- ・NGO・学校・保健所 etc.一緒に継続する性教育! (PNY びにい)
- ・W.YOKOの第二弾 How to make AIDS Workshops①~③ (TENCAI : 鮎川葉子&吉永陽子)
- ・性の疑問・質問アラカルト (“人間と性”教育研究協議会かながわサークル)



■若者に参加して欲しい...

- ・エイズ基礎講座①~⑤
- ・若者の性行動とエイズの予防対策 (赤枝恒雄・AIDS ネットワーク横浜)
- ・若者たちは、今... 買春・性感染症・ドラッグ (水谷修)
- ・若者をとりまく、性とHIV/AIDSの情報環境 (CAI + 岩室伸也)
- ・高校生エイズフォーラムから<展示>
- ・H.I.Voice 朗読劇場 (城郷中学校演劇部)

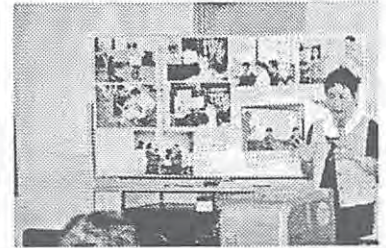
特別講演&トーク

「有森裕子が語るカンボジアのエイズ」

オリンピックの女子マラソンメダリスト有森さんは、マラソン大会などスポーツイベントの収益をカンボジアの支援にあてるNPO「ハート・オブ・ゴールド」の代表。また国連人口基金親善大使に就任し、カンボジアのエイズ予防プロジェクトにも協力している。有森さんは「カンボジアの状況は危機的。私もスポーツイベントの場などで募金を呼びかけていきたい。」と熱意を語ります。開会にあたり、特別講演をしていただくことになりました。(司会 岩室伸也 友情出演 パトリック)

◇ハート・オブ・ゴールド

<http://www.hofg.org/title.html>



■検査、治療の最前線に...

- ・STDとHIVの迅速検査 (西大條文一)
- ・HIV/AIDSの臨床最前線 (都立駒込病院 今村顕史)
- ・ちょっと聞けない薬の話 (ベック編・アドバンス編) (聖マリア医科大学微生物学教授 中島秀喜)
- ・AIDSにおける行政と民間の共働をめざして (エイズ予防財団)
- ・HIV検査・相談マップの取り組みと検査まめ知識 (LAP)
- ・産婦人科医療にはぐれないために (熊手麻紀子、わたなべ ゆうこ、まつばら けい)

■セクシャリティも重要なテーマです...

- ・遠い声、遠い部屋~ゲイの悩みに耳を澄ませ (AGP)

■今年は国際関係がそろいました...

- ・在日外国人医療の現状と問題点 (AMDIA 国際医療情報センター)
- ・体験してみよう「タイの農村での参加型エイズ教育」(シェアアユース)
- ・アジア太平洋エイズ国際会議とNGO (神戸会議 NGO連絡会・AIDS&Society 研究会)
- ・国境なき医師団とその取り組み (国境なき医師団)
- ・あなたはアフリカがエイズで減びると思いますか? (アフリカ日本協議会感染症研究会)
- ・タイのエイズ事情とボランティアワーク (JICA タイエイズプロジェクト/YMCA ユースボランティア)
- ・外国人 HIV 患者/感染者のかかえる問題 (小林国際クリニック)
- ・第14回国際 AIDS 会議(パ・地)に参加して (HIVと人権・情報センター)



■エイズから社会問題を考えます...

- ・病み棄ての戻り道・あるハンセン病快復者の人生から (伊波敏男)
- ・一緒に縫おう、ベビーキルト (ABCキルト)
- ・No! 子ども買春! 子ども・若者にできることは? (佐藤信一: 国際子ども権利センター)
- ・再び繰り返される薬害 薬害エイズの被害者は今 (薬害エイズを考える山の手の会)
- ・ネット世界を通して考える子どもの性的人権 (ECPAT/ストップ子ども買春の会)
- ・監視庁さん、まだ AIDS を差別するのですか PART 2 (HIV 不当解雇訴訟を考える会)
- ・DRUG (神奈川県青少年協会)
- ・避妊薬ピル、その副作用の実態を知る (「エコロジーと女性」ネットワーク)



■HIV 感染している方々からのメッセージ...

- ・ますます Positive!!!! (パトリック&伸也) ・エイズ予防啓発・仲間から仲間 (サークルホン)
- ・PWA/Hの社会参加を考える~今、私たちに必要なもの、そして市民としてできる事~ (JaNP+)
- ・生活者として感じる事、PWA/Hとして思う事 (JaNP+) (マスコミ非公開)
- ・感染後に変えた事、変わった事 (ぼーとたまがわ) ・はじめての HIV 感染者の歯科治療 (サークルホン)

■参加団体報告&メッセージ

病み棄ての戻り道(あるハンセン病快復者の人生から)

◇講師:伊波敏男(沖縄県生まれ、元ハンセン病患者、「花に逢はん」「夏椿、そして」の筆者)

◇実施まで:2001年、熊本地裁判決から控訴断念、衆参両議院の謝罪決議、被害者への国家賠償、日本のハンセン病問題をめぐる一連の動きは、マスコミで大きく報道された。AIDS文化フォーラム実行委員会(現:運営委員会)でもプログラム候補になった。しかし、どのような企画にするのか?講師は?何を伝えたいのか?討議は何度も重ねられたが、結局その年のプログラムとして実行には至らなかった。脚光を浴びた話題で文化フォーラムの集客を狙う企画は、付け焼刃のようで何かしら後ろめたさを感じ、それを乗り越えるだけの信念も知識も理論もなく、準備の時間も足りなかったからである。その後も運営委員の協力で、それまでに行われたハンセン病をテーマとした企画について情報を入手し、資料館に出かけ、医学書を再読したが、知識が集まる程に迷いは大きくなるばかり。そこで、私自身のAIDS啓発活動のターニングポイントが感

染者に出会った事にあつたように当事者について直接話を聞かせてもらえないだろうかと考えた。AIDS啓発活動に携る知人の紹介で訪問が可能となった。伊波さんは、こころよく講師を引き受けて下さり、2002年夏、1年越しのプログラムが実現した。広報として神奈川県庁のチラシで紹介して頂いた。

◇来場者感想:感動しました。会えて良かったです。(多数)伊波さんの話し方がとてもおだやかで安心して聞けました。生の声、力強い生き様、パワーを頂きました。長時間があつという間、引き込まれるようでした。じっくり考えていかななくてはと思います。もっと多くの人に聞かせたい。何も知りませんでした。重い人生を聞かせて頂いた者の責任を少しでも果たしたいと思ひます。この事を語り継がなければいけないと思ひました。

◇連絡先:吉永陽子 〒181-0015 三鷹市大沢2-20-36 長谷川病院 TEL0422-31-8600



「乱用薬物」の誘惑には「いや!」と叫ぼうのパフォーマンス…会場は拍手と爆笑に湧いた。

北沢杏子のエイズの模擬授業

および「性を語る会」専属劇団 THE DAIKON座による『童貞なのにどうして?(STD)』

◇主催:「性を語る会」講師:北沢杏子

◇内容:代表の北沢杏子が今年4月に取材したUXO LAO ラオス・不発弾処理現場を写真パネルで説明。ベトナム戦争の裏に隠されたラオスの秘密戦争(報道規制)と、エイズとの関連を報告した。

そのあと、毎年好評のエイズの模擬授業を行い、参加者による紙芝居の実演、「乱用薬物」の誘惑には「いや!」と叫ぼうのパフォーマンスで、8歳から80歳という年齢の開きもいっぺんに吹き飛び、会場(参加者120人以上)は拍手と爆笑に湧いた。

今年は9回目、毎年新しい企画を考えるのが楽しみだ。今回はSTD(性感染症)とエイズとの関係を劇にして、THE DAIKON座(座員4名)が演じた。高校生男子が合

宿の打ち上げのあと某所に行き、クラミジア尿道炎に感染。泌尿器科で診てもらって「おれ、童貞なのにドーナテ?(どうして?)」と叫ぶ。どうしてかわかりますか?日本医師会の発表によると、女性の咽頭からのクラミジア検出率は10.5%。答えのわかった人は下記まで返事をください。展示ブースでは、HIV/AIDSの授業のために必要な「発達段階に応じた性教育」の実際と、国連人口基金及び国際協力事業団の研修生のアーニホールでの受講風景の写真パネル(指導:北沢杏子)や書籍等を展示。

◇連絡先:アーニ出版「性を語る会」〒158-0097

東京都世田谷区用賀3-5-6

TEL:03-3708-7326

E-mail:shima@ahni.co.jp

在日外国人医療の現状を問題点

◇主催:NPO法人AMDA国際医療情報センター

◇講師:事務局長 青木繁行

◇ねらい:現在わが国にはオーバーステイを含め約20万人の外国人が在住している。これら外国人が日本で生活する上で一番難渋しているのは医療問題で、その中でも不満足の高割合なのは、医師との意思の疎通が困難、病院の情報が少ない等となっている。AMDA国際医療情報センターは1991年4月の設立以来日本語に不自由な外国人からの医療・医事電話相談に対応してきたが、この間我々に寄せられた電話相談から在日外国人医療の現状と問題点を事例を紹介しながら掘り下げたい。

◇内容:

(1) 外国人医療相談の3つのキーワード(COMMUNICATION, MEDICAL EXPENSES, FOREIGN CULTURES), (2) AMDA国際医療情報センターの概要と業務内容、(3) 相談業務の特徴-16項目のガイドライン、(4) 電話相談の内訳と最近の特徴、(5) 相談事例から

◇連絡先:NPO法人AMDA国際医療情報センター

TEL03-5285-8086



一緒に縫おうベビーキルト

◇主催:ABCキルトジャパン

◇ねらい:エイズの赤ちゃんに贈るベビーキルト作りを通してエイズへの理解を深め、エイズの子どもたちの現状を知ってもらう。

◇内容:おもなキルトの寄付先である南アフリカでは1日2500人が感染し、300万人が孤児になるだろうと予想されている話をし、このあと参加者全員でキルト作りをした。学校や保健所からの参加者にはABCキルトの取り組み方を説明。会場内にタイ・スタディツアー2001の写真を展示し、参加した大学生のツアー記を配布した。またキルト作りをした岩瀬中学の生徒たちのメッセージも展示した。

◇来場者の感想:・キルトを作る背景やエイズ孤児の話をもう少し伺えるとよかった。

・思った以上に時間と気持ちが大切だと思った。
・地域に戻ってこのボランティアを広げていきたい。

連絡先:上村春子 〒233-0015

横浜市港南区日限山3-1-11

TEL/FAX:045-844-8124



セックスワーカーネットワークとHIV/STD予防

◇主催:SWASH (Sex Work and Sexual Health)

◇講師:要友紀子・水島希 (SWASH)

◇ねらい

セックスワーカー (SW) 当事者やサポーターによるグループは多くの国や地域にあり、HIV/STD感染予防のためにさまざまな試みを行っている。アジアのSWがおかれている現状と、その中で行われている当事者たちの試みを紹介することで、SWが具体的に必要としている事への理解が深まることを期待する。

◇内容:

アジアでは、SWへのHIV/STD予防介入は警察と法による厳しい取締りのため困難を強いられることが多い。東アジアのSW会議で報告された、当事者グループが行っている具体的な活動(パンフやコンドームの配布/警察や政府との交渉など)の成功例と苦労、望むサポートについて報告した。また、フィリピン、オーストラリアで作成され、実際に使われているSW向けSTD/HIV感染予防のための教育ビデオを紹介した。

●その他、活動内容など

SWASHは2003年神戸エイズ会議にむけて国内/海外のネットワークを強化するために企画を準備しています。現在、協力者を募集中(特に当事者と翻訳サポーター)。また、SWの現状についての出張講演もします。ご連絡は以下まで。

◇連絡先

SWASH: 〒606-0841京都市上京区河原町

今出川下ル梶井町448-2F (acta)

tel&fax 075-211-8093

e-mail swash@swashjp.com

ホームページ(近日中) <http://www.swashjp.com/top>

*HIVとともにPOSITIVE
に生き13年…「生きる」
ということについて何か
を感じてもらいたい。*

ますますPositive!!!!

◇主催:パトリック & 紳也

◇ねらい:HIVとともにPOSITIVEに生き13年になるパトがこの一年もまた元気に、そしていろんな活動を展開してきたことを報告する中から、「生きる」ということについて何かを感じてもらいたい。

◇内容:パトと友人&主治医の紳也のフリーハンドなトークを通じて楽しくHIV/AIDSを理解する。

◇来場者感想 とても楽しかったです。生きることに對するメッセージを受け取ったように感じました。「自分がしたいことをして作ったシチュエーションだから後悔しない」というのを心にとめて、自分の中におとして行きたいと思いました(20代、女性、学生)。パトの明るさ、やさしさ、人間関係を大切にすることが伝わりました。1度きりの人生、愛のある生き方をしたくなりました。今日の一期一会(パトの言葉)を大切にします(30代、女性、教育関係)。

◇連絡先

パトリック TEL&FAX 03-5725-2347

E-mail: fa4j-bmmr@asahi-net.or.jp

岩室紳也 厚木市水引1-16-36

県立厚木病院泌尿器科

TEL:046-221-1570 FAX:046-222-7836

E-mail: shin.iwamuro@nifty.ne.jp

HP: <http://homepage2.nifty.com/iwamuro/>





子ども買春を頭ではなく
心で感じてもらうため
に、実話に基づいた話
を聴いてもらいました。

No! 子ども買春! 子ども・若者にできることは

◇主催: 国際子ども権利センター

◇ファシリテーター: 佐藤信一 小星靖恵

谷明日美 杉本真弥 (国際子ども権利センター)

◇ねらい: 子どもたちの心と身体に深刻な影響を及ぼす子ども買春。特に身体的な影響として挙げられるのがHIV/エイズへの感染です。子ども買春とは何なのか?どのくらいの子もたちが犠牲になっているのか?や、その廃絶に向けて子ども・若者自身が重要な役割を持って行動していることを知ってもらう。そして、参加者の皆さんとともに自分には何が出来るのかを考えます。

◇内容: 最初に、子ども買春を頭ではなく心で感じてもらうために、実話に基づいた話を聴いてもらいました。その後、子ども買春の定義・現状やHIV/エイズとのつながりを解説し、その廃絶に向けた国際・国内の取り組みの流れを、パネルを使って参加者とともに追っていきました。最後には、昨年行なわれた「第二回子どもの商業的性的

搾取に反対する世界会議」における子ども・若者の主体的な参加を紹介し、自分たちには何が出来るかをディスカッションしました。

◇来場者感想: 色々みんなが参加できるように工夫してくれていたで、頭に残りやすくてよかった(10代、男性、学生)。自分で考えるだけでなく、うまく周りに伝えていけたらいいと思いました(20代、女性、学生)。最初の知識も年表を使って分かりやすく理解できました。グループに分かれてのディスカッションも参加型で楽しく有意義でした(10代、女性、学生)。

◇連絡先: 国際子ども権利センター 東京事務所
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21

三錦ビル4階A

TEL/FAX 03-3219-3977

E-mail: jicrc@jca.apc.org

URL: <http://www.jca.apc.org/jicrc>

性教育で困っている養護教諭のつどい

◇主催: 荒井美恵&高橋かんな

◇ねらい: 性教育に関して日頃困っていることを共有し、今後の方向性を探る

内容: 率直な意見交換の場を意図している参加型のセッション

◇来場者感想:

・性に関していろんな立場で関わっている人と話す機会を作っていただきありがたく思っています。親と子のコミュニケーション、その中で性について一緒に考える、情報交換をお互いにしていくということが大切だと強く感じました。

・「仲間がいる!」という力強い応援をいただくことができました。

・みんな苦勞しているなー。立場は様々だけど、苦勞しているのは同じです。でも一人でできることは限られているけど、みんなの知恵を集め

れば、それ程絶望することも無い、と希望を感じました。来年もやってください。また絶対来ます。このプログラムの面白さはこのフォーラムの中でもピカ一です。

主催者感想:

昨年に引き続き参加してくださる方もいて、非常にうれしかったと同時に、性教育はまだまだ先が見えない、永遠のテーマだなと感じました。しかししがきながら頑張っている方々と知り合えるこの場合は、私たちに元気を与えてください、そんな出会いにとっても感謝しています。ここから広がる輪を大切にしていきたいと思ひます。

◇連絡先: 高橋かんな

千葉県立鎌ヶ谷西高等学校

TEL047-446-0051

ちょっと聞けない薬の話(ベーシック・アドバンス編)

◇講師: 中島秀喜(聖マリアンナ医科大学微生物学)

◇(ベーシック)

ねらい: 難解で敬遠されがちなウイルスそのもの、HIVについてと薬剤の作用と効果についてわかりやすく広く一般的に解説して頂き、理解を深める。

ながれ: プログラムの趣旨説明、講師紹介、講演(パワーポイント使用)。スライドは講師が本プログラム用に特別に作成。ウイルスとは、HIVの特徴、AIDSの基礎知識、治療薬が何故、どうして効くのか?質疑応答、まとめ

◇(アドバンス)

ねらい: AIDS治療薬についての最近の話題と問題点についての報告。実際服薬をしている患者さんの立場から北山さんに聞き手として登場して頂き、理解を深める。

ながれ: プログラムの趣旨説明、講師紹介、講演(パワーポイント使用)。スライドは講師が本プログラム用に

特別に作成。HIV/AIDSについて、治療薬の現状と問題点、耐性ウイルスとは聞き手自己紹介、以後トークライブ形式で進行、質疑応答、まとめ

◇来場者感想: とてもわかりやすかったです。とてもためになりました。(多数)今まで苦手としていたことが理解できた。他ではなかなかここまで聞けないので新鮮でした。普通では聞けないことがたくさんありました。難しい。薬が小さく、少なく、飲みやすくなればいいなと思います。開発を頑張って下さい。素晴らしいスライドでした。薬の副作用、飲みにくさ等について知識と実際の具体的な話、両面が聞けてよかった。随分いろいろな薬が開発されていて、(AIDSが)普通の病気に近づいているなと思った。薬の話からHIV/AIDSの全体像がわかった。難しい。午前中より来場者が引き付けられていたようで、とても雰囲気よかったです。

◇連絡先: 吉永陽子 〒181-0015 三鷹市大沢2-20-36 長谷川病院 TEL0422-31-8600



再び繰り返される薬害、薬害エイズの被害者は今

◇主催：薬害エイズを考える山の手の会

HIV 訴訟を支える会

◇ねらい：96年春、薬害エイズ訴訟が和解し、世間は薬害エイズは、もう解決したかのような風潮ですが、その後、薬害エイズと同じ構図によって起きた薬害ヤコブの問題が明るみに出ました。再び繰り返される薬害に対して、薬害エイズの被害者は今、何を思い、また、どう生きているのか、被害者本人から語ってもらい、参加者と共に、日常生活を共有し合うことをねらいとしました。

◇ながれ：まず、北海道に住む薬害エイズの被害者夫婦が、当事者としての薬害エイズ・薬害ヤコブ・ハンセン訴訟の支援活動の取り組みを通じて感じたこと、また、その夫婦生活を語ってもらい、その後、東京に住む遺族原告に遺族の立場からその思いを、また、原告本人から、現在の日常生活、山の手の会の活動の取り組みを語ってもらいました。参加者からは、被害者に対して、医師

に対する感染告知のこと、薬の使用、また、HIVの感染ルートによる違いなどの質問がありました。

◇来場者の感想：

- ・ 久しぶりに被害者の生の声を聞き、忘れかけていた自分の原点を思い出した。
- ・ 人としての立場から、それぞれの経験など思いや生き方を学ばせてもらった。薬害を繰り返さない。知り合うことが差別や偏見をなくす。

◇連絡先：

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-26-12-103

薬害エイズを考える山の手の会/江川守利

TEL&FAX 03-3364-3733

E-Mail:uy53814@blue.b-city.net

<http://yamanote.hoops.ne.jp/>



新学習指導要領の変革と性をテーマにした総合的な学習

◇講師：五十嵐多賀子・安藤晴敏

◇ねらい：2003年より、学習指導要領は改訂され、新しい学習内容に沿って授業が展開される。中でも保健は3年間2単位を存続しながらも内容は削減され、中身の濃い授業となる。また、導入される総合的な学習も新しい視点に立った保健学習・保健教育が期待できる。

◇内容 来年度からの保健の授業は、自らの健康は自らが作り、管理することに主眼が置かれている。学校教育では、従来型の解説型授業ではなく、生徒参加型のライフスキルを多く入れた授業となり、その目的を知識の理解だけではなく、思考判断等の力を今以上に養う学習内容を検討しました。総合的な学習の実践では、「性」をテーマにした授業にカウンセリングの手法を取り

入れ、生徒の性に関する事例に対し、判断力や認識力を養うことを目的とした。また、養護教諭と保健体育科教諭とのチームティーチングで行った新しい試みの授業を紹介した。

◇連絡先 安藤晴敏

〒229-0029 神奈川県相模原市弥栄3-1-9

神奈川県立弥栄東高等学校

TEL 042-758-4694 fax 042-751-6163

E-mail andy@yaei-h.ed.jp

薬害エイズは、もう解決したかのような風潮ですが…同じ構図によって起きた薬害ヤコブの問題が明るみに出ました。

HIV感染症診療の現状と問題点

◇主催：今村顕史（東京都立駒込病院感染症科）

◇ねらい：HIV感染症の治療は近年急速に進歩し、成果をあげてきました。しかし、これらの治療は年々複雑になり、内容を理解することも難しくなってきたのが現状です。本講義では、この難解な治療を少しでもわかりやすく説明するようにし、さらに現在のHIV診療がかかえる問題点についてもまとめました。

◇内容まず、基本的なHIV感染症の自然経過と合併疾患（日和見感染症）の関係について解説しました。そして現在の抗HIV薬による多剤併療法が、どのような目的で行われているのか。また、いつ、どんな薬による治療がおこなわれているのか、さらに副作用などの問題についてもまとめま

した。講義の後半は、外来でのアンケート調査の結果なども参考にしながら、実際の診療現場での問題点をお話してみました。

単にHIV感染症の治療だけを示すのではなく、現在のHIV診療のかかえている多くの問題についてもお話することで、今後の診療のあり方や、サポートする側に求められていることについても、みなさんに考えてもらえるような内容を目指しました。

◇連絡先：

今村顕史

〒113-8677 東京都文京区本駒込3-18-22

都立駒込病院感染症科 TEL 03-3823-2101





学校では性教育の話はあってもコンドームの話まではしてもらえませんでした。…マンガとかで得た間違った知識じゃなく、ちゃんと知るべきだと思う



こんなエイズ教育があつたらな

◇主催: AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

◇ねらい: 若い世代、感染している当事者、そして学校の教員の視点から「こんなエイズ教育があつたらな」という理想論のディスカッションをする。

ながれ 女子高校生、HIVに感染している男女(桜屋伝衛門、北山翔子)、高校教師(安藤晴敏)、医師(岩室紳也)、がそれぞれの立場からエイズ教育の理想像を語り合った。結論を出すのではなく、それぞれの立場から率直な意見交換を心がけ、来場者の感想からも目的がある程度達成できたと思う。

◇来場者感想 生徒の立場での意見を聞けたのは参考になりました。とにかく時間を共有することが理想とは思いますが、学校だけでは限界ですのでやはり連携が大切だと思います(20代、女性、教育関係)。私の学校では性教育の話はあってもコンドームの話まではしてもらえませんでした。やっぱり、みんな(友達とか)が持っている知識ってマンガとかで得た間違った知識みたいなのでちゃんと知るべきだと思う(10代、女性、学生)。タイトルにほれ込んで出席してみたが、本

日がキッカケになり今後もかなり長期にわたっての討論が必要と思われる(60代、男性、NPO)。HIV感染者の人に直接お会いしたのも、話を聞いたのも初めてだったので「何だ、普通の人じゃない」と感じるという話、すごくよくわかりました。北山さんの自分がそうなのに他の感染者の人がどんな人かすごく気になったという気持ちもとてもよくわかりました。パネラーの女子高校生にも感心してしまいました。あの若さであれだけはっきり自分の意思をこれだけの人に語れる力、楽しき聞かせていただきました(40代、女性、教育関係)

◇連絡先: 岩室紳也

厚木市水引1-16-36 県立厚木病院泌尿器科
TEL046-221-1570 FAX046-222-7836

E-mail: shin.iwamuro@nifty.ne.jp

体験してみよう「タイの農村での参加型エイズ教育」

◇主催: 特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会 & 特定非営利活動法人アユス仏教国際協力ネットワーク

◇ねらい: シェアがタイ東北部農村地域に行っているエイズ啓発活動を紹介し、かつ参加者に体験してもらった。シェアの経験や手法を理解してもらおうと共に、最後にはHIV感染者が書いた手記を読んでもらい、タイ人の立場にたって私達に出来ることは何かを考えてみた。

◇ながれ: 1. 導入: 団体の活動紹介 2. シェアのエイズ教育の実践: 水の交換、タイ東北部の村の生活の説明、AIDSの問題意識を高めるグループワーク 4. 応用: 感染者の手記

◇来場者感想: 参加型ワークショップは面白かった/感染者や患者に対していろいろな立場からどんなサ

ポートができるのか小グループで考えることができ、有意義なプログラムだった。/注射器を使ったワークショップ(水の交換)はとても新鮮でよかった。/タイの農村での成果を生かして日本国内でもどんどん啓発活動をしてほしい。

◇連絡先:

・シェア＝国際保健協力市民の会 〒112-0004
東京都文京区後楽2-20-18掛川ビル101号
Tel03-5800-4778 Fax03-5800-4779

E-mail: share@tokyo.email.ne.jp

・特定非営利活動法人アユス仏教国際協力ネットワーク

〒134-0024 東京都江東区清澄3-4-22

Tel03-3820-5831 Fax03-3820-5832

E-mail: tokyo@ayus.org

ネット社会を通じて考える子どもの性的人権

タイトル: (ECPAT/STOP子ども買春の会)

主催: ECPAT/STOP子ども買春の会

進行: 高橋利枝(ECPAT/STOP子ども買春の会)、土屋純(日本YMCA同盟)

講師: 浜田忠久(JCAFE)

ねらい: 2002年度から全ての公立小中高等学校等におけるインターネットの接続され、「モード」などの携帯電話の普及など、子どもを取り巻くネット社会は急速に広がっています。ネットを通じたコミュニケーションの機会が増えると同時に、事件に巻き込まれるケースもでてきました。このワークショップでは、今年2月発刊された「インターネット上の子どもの安全ガイド・ECPAT編(日本語版)」を紹介しながら、インターネットの基礎

知識に触れ、学校や家庭でどのような対応が望まれるか、ロールプレーでの会話やグループディスカッションを通じて子どもの性的人権が侵されないために、何ができるかを考えてみました。

◇来場者感想 年代による意見の差が大きいと痛感しましたが、日頃からお互いに努力すること、大人に関しては早く法律で取り締まることも子どもたちを守る方法だと思います。

◇連絡先: ECPAT/子ども買春の会

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-25

幡風会第2会館 TEL 03-5338-3226

“エイズ対策”保健所をうまく使っちゃおう！

◇主催:びにい・PNY (Peer Network Yamagata)
 進行:渡會睦子(PNY・保健師)大谷重夫(HIV感染者)
 ◇ねらい:NGO、学校、PHA、保健所等様々な立場から、有効的なHIV/AIDS・STD対策を行う為にはどう保健所を活用するか、みんなで一緒に検討することを目的に開催しました。
 ◇内容:①PNY協力者の活動事例報告;東京都品川区保健センター 金子道子さん、東京都内23区保健所 安房政吉さん、大分県立病院総務課(元大分県健康対策課)原浩一さん②座談会;保健所をうまく使うコツは何?
 ◇来場者感想:・保健所に関わりやすくなった(学生)・保健所のHIV抗体検査の工夫がとてもよかった(NGO)・保健所の机上の話ではない現場の話が大変興味深かった(会社員)・予算と人員配置の制限内で、事業を工夫する大切さを知った(保健所職員)・地域に働きかけていなかったのだからはやってみたい(保健所職員),etc.
 活動内容:PHA、NGO・NPO、学生・PTA・教育者、医

療関係者・行政等、様々な立場から、HIV/AIDSやSTDについて、Peerな関係で効果的な対策を図る為、検討会・講演会などを開催しています。

◇連絡先:
 代表 わたらい渡會睦子
 E-mail:mutsuko@mub.biglobe.ne.jp
 〒990-2212山形市上柳260
 (山形県立保健医療大学内)
 TEL:090-2272-0122 FAX:023(686)6676



NGO・学校・保健所etc.一緒に継続する性教育！

◇主催:びにい・PNY (Peer Network Yamagata)
 進行:渡會睦子(PNY・保健師)大谷重夫(HIV感染者)
 ねらい:NGO、PTA、学校、PHA、保健所等が連携しながら行う、有効的なHIV/AIDS・STD対策の為の性教育連携方法について検討することを目的に開催しました。
 ◇内容:①PNY協力者の活動事例報告;HIVと人権・情報センター(JHC)伊藤麻里子さん、東北HIVコミュニケーションズ(THC)本郷正武さん、盛岡白百合学園中学高等学校IWATE:生と性及びエイズ教育を考える会 ②座談会;一緒に継続するコツは何?
 ◇来場者感想:・横の連携は、子ども達だけでなく私たちも得をしますね(教員)・断片的な教育しかできず悩んでいたが、一緒に計画する大切さを強く感じた。具

体的にやってみます!!(保健所職員)・やってみたい!今度相談します!(教員)・PNYのCD-ROMを使いたい!(教員),etc.

活動内容:PHA、NGO・NPO、学生・PTA・教育者、医療関係者・行政等、様々な立場の協力者が、HIV/AIDSやSTD予防について、誰でも使える性教育教材としてのCD-ROMの作成・講演会などをしています。

◇連絡先:代表
 渡會睦子 E-mail:mutsuko@mub.biglobe.ne.jp
 〒990-2212山形市上柳260
 (山形県立保健医療大学内)
 TEL:090-2272-0122 FAX:023(686)6676

保健所をうまく使うコツは何?

STDとHIVの迅速検査

◇主催:西大條 文一(北新宿同仁斎メディカルクリニック院長)
 ◇ねらい:STDとHIVの迅速検査はいろいろな意味でこれからスクリーニング法として重要になってくるとおもわれます。本邦でいち早くこの検査法をとり入れた当院の経験がひとつの役に立てばとおもい、STDとしてのHIV、HIV以外のSTDについても理解をふかめてもらうと試みました。
 ◇ながれ:STDの総論、最近増加している病気、HIVの迅速検査による陽性者の推移、現状などについて話し、そのあと質問を受けました。

◇来場者感想:
 ・とても勉強になりました。・各論に時間を使ってほしかった。・検査クリニックの生の様子がよく伝わってきた。・海外での応用の可能性についてききたかった。

◇連絡先:
 〒169-0074
 東京都新宿区北新宿3-1-3第二山武ビル二階
 北新宿同仁斎メディカルクリニック
 Tel.:03-3369-6030 fax:03-3369-6029





カミングアウトを悩む人とカミングアウトした人と様々混ざりあって…

遠い声、遠い部屋 ゲイの悩みに耳を澄ます

◇主催:AGP 講師:宮島謙介(成城墨岡クリニック臨床心理士)

◇ねらい:ゲイは地域の隣人として認知されず、実像を理解されにくい。それらのためにまたゲイ当事者も社会の中で自分をのびのびと表現できないという悪循環がまだまだ続いている。そこで今回はゲイを主な対象としたゲイによる電話相談の内容を紹介し、聴衆にとっても実は身近であるはずのゲイの気持ちを知ってもらい、身近なゲイの存在を知ったじぶんがどのように感じるのか、カミングアウトする／しないのはどういう気持ちなのかを体感してもらう。

◇内容:主催者AGPが行っている日本全国のゲイ向けの電話相談の業務集計から、なんらかの心的サポートを求めているゲイの生活圏、悩みの内容などの分析をプレゼンテーションし、その後の質疑応答では主催者と聴衆、ゲイとヘテロセクシュアル、(ゲイであることに限らず)カミングアウトを悩む人とカミングアウトした人と様々混ざりあって積極的なQ&Aが展開した。

◇来場者感想:考えても見なかった世界を知ることが

出来ました。ゲイのカミングアウトをされても受け入れられない自分をもみました(50代女性、教育関係)。ひとりでも悩んでいる人もいるのでは、と思っていました。でも前向きに人生を開拓して行く姿に感銘を受けました(20代女性)。

◇連絡先:AGP 〒164-0001

東京都中野区中野5-24-26 601 「LOUD」内
URL:<http://homepage2.nifty.com/AGP/>

国境なき医師団とその取り組み

◇主催:国境なき医師団日本

報告者:小林さくら(看護師)岡本 幸子(広報)

◇ねらい:国境なき医師団(MSF)がARV治療を行っているケニアのホームベイに派遣された小林さくら看護師の活動報告を通して、途上国におけるHIV/エイズの現状を広く知ってもらう。

◇内容:

- ・広報からMSFの歴史/活動/理念と「必須医薬品キャンペーン」に関する説明
- ・小林さくら看護師からケニア、ホームベイのHIV/エイズの現状報告

◇連絡先:国境なき医師団日本

〒161-0033 東京都新宿区下落合2-4-10
TEL:03-5988-0560 FAX:03-5988-0561

若者たちは、今… 買春・性感染症・ドラッグ

◇主催:水谷 修

◇ねらい:今、少年による非行・犯罪が急増しています。警察庁の発表では、全刑法犯の実に40%以上が少年という異常な事態を迎えています。私は、ついに戦後第四回目の少年犯罪多発期に入ってしまったと、若者たちとともに生きて感じています。この、今回の少年犯罪多発期の特徴である性的問題や薬物の問題の現状を、私の扱ったケースから見ていくとともに、その原因を探り、またその背景として横たわる私たちの社会の問題点を、私たち一人一人の生き方・あり方の問題点を考えていきます。今問われていることは、また、今、夜の世界に沈み込んでいく若者たちが求めているのは、何でしょうか。この問題を、会場にいられた一人一人の人の問題として考え、また一人一人ができること、しなければならないことを、みんなで考えることができれば幸いです。

◇来場者感想 水谷氏の話は具体的で、シャープで、切実な内容だった。神奈川県におけるドラッグの扱いは以前より聞いているが、臨場感があって良かった。この時代が何なのか、よくわからない大人が自身を失い、また生きる上での基礎的なことがないがしろにされていると感じる。(50代、男性、会社員)大人としてやるべきこと、考えさせられました。先生のお話を勤務先でも同僚や生徒達に伝えて行きたいと思えます。(40代、女性、教育関係)

◇連絡先 水谷修

〒233-0006 横浜市港南区芹が谷2-14-14

TEL/FAX 045-822-2879

E-mail: om@yhb.att.ne.jp

HP:<http://www.koubunken.co.jp/mizutani/main.html>



タイのエイズ事情とボランティアワーク・1

◇主催: JICAタイエイズプロジェクト

◇ねらい: JICAタイエイズプロジェクトの研修で来日しているタイの看護師の方にタイのエイズ事情を紹介してもらい、タイのエイズ対策への日本の支援、日本のエイズ対策へのアドバイス等を考える。

◇ながれ スライドでタイのエイズ事情を紹介し、その後質疑応答。

妊婦におけるHIV感染率(%)の推移 P地区におけるHIV/AIDSの推移(実数)

◇来場者感想 タイのエイズ予防啓発について日本は学ぶところが多いと思いました。日本での感染者の増加は本当にショックです(30代、女性、NPO)。タイの当事者の方から直接お話を聞いてよかったです。特にタイの軍に入った人がどうして検査を受けなければならないのかちょっと不思議でした。コンドームの使用

率80%というのには驚きました。日本は20%…。厚労省にがんばっていただきたいです(10代、女性、学生)。タイの実態と日本とはエイズ事情が違うことがわかった。とても日常に根付いた尿貴であり対応策もきちんとしているのだと思った。日本ではまだ日常的なものとは言えず、無関心な人が多いと思う。その辺をどう変えるかが日本の課題だと思った(無記名)。

◇連絡先: 岩室紳也

厚木市水引1-16-36県立厚木病院泌尿器科

TEL 046-221-1570 FAX 046-222-7836

E-mail: shin.iwamuro@nifty.ne.jp



タイのエイズ事情とボランティアワーク・2

◇主催: 横浜YMCA国際ボランティアinタイ メンバー

◇ねらい: タイ、エイズ、子どもに興味・関心をもつ若者11人のタイでの体験をビデオも交えて報告し、何を感じ、何を学んできたのかを伝える。そして、エイズ問題は他人事ではないと多くの若者が自ら考えることの出来る場がもっと必要とアピールする。

◇内容: 人身売買の危険のある子どもを保護し、自立をサポートする「バヤオセンター」、エイズ孤児ケアセンター「ハッピーホーム」、エイズ患者の方が入院されている病院等に訪問し異なる文化、人に衝撃をうけたことを報告した。バヤオセンターの子ども達は一人一人が自立し、相手を思いやり、積極的に勉強したいと願っている。親をエイズで失ったハッピーホームの幼い子ども達との交流は私達に大きなパワーを与え、タイを身近に感じさせてくれた。HIV感染者の方はHIV感染を知ってからカミングアウトして受け入れるまでの気持ちを話し、残される家族のためにも精一杯生きていきたいと前向きな姿を見せていただいた。この様な

体験を通して「自分達に出来ることは何だろう」「なにかしたい」と考え、活動を始めることが出来た。ひとりひとりの力は未熟でも、目的意識を持った若者が集まり気持ちを共有することによって大きな力になると学んだ。エイズやボランティアに全く興味を持っていない若者でも置かれた環境によって変化することがある。そこに希望があると感じる。何かをするためのボランティアだけでなく何かを考えるためのボランティアも必要である。

◇連絡先: 横浜YMCA国際・地域事業担当

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7

横浜YMCA

Tel.045-662-3721, Fax 045-651-1069,

E-mail: kokusai@yokohama-ymca.or.jp

親をエイズで失った幼い子ども達との交流は私達に大きなパワーを与えてくれた。

性の疑問・質問アラカルト

◇主催: “人間と性”教育研究協議会かながわサークル

◇ねらい: 性の質問に答えるための根本となるセクシュアリティについて見つめなおしたい

◇内容: 3人で1組になり、「お互いSexしたかったら、していいんじゃない?」というテーマでロールプレイを行いました。質問者は中2、回答者の設定は自由としましたが今回はいずれのグループも母親役になりました。観察者役の人も含めて振り返りをしてもらい、「話を良く聞いてはくれるけど、本音のところでは反対なんだと感じてしまった」等の意見が出されました。

後半は「Sexを子どもに許せると思う条件とは何か?」について、ロールプレイのなかで争点となったことをもとに話し合い、「せめて高卒までは」という年齢の問題や経済的な自立の問題、妊娠や性感染症のリスク軽

減の知識などが出されました。また子どもに答える上で、大人の価値観を押し付けるのでは納得できないという意見や、子どもも反論できる関係であればこちらの価値観をぶつけていいのではないかと、などの意見も出されました。まとめにかえて、かながわサークル内の「子どもにこれだけは伝えたい」内容についての、合意に至った点と合意に至らなかった点についてまとめたプリントを配布しました。

◇連絡先:

“人間と性”教育研究協議会(性教協)かながわサークル事務局 南雲由美子

〒194-0004 町田市鶴間661-1-2-1513

TEL&FAX 042-799-6202

E-mail: nagumy@cw.catv.ne.jp





第14回国際エイズ会議(バルセルナ)に参加して

◇講師：五島真理為、

◇主催：特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター

◇ねらい：2年に一度開催される国際エイズ会議の全体の雰囲気や、どのようなことが話し合われ、どのようなことが行われたのか、をより多くの人々に知ってもらう。

◇内容：開催国スペイン、カタルーニア地方の民謡「鳥の唄」のチェロ生演奏と、AIDSで亡くなられた人々を追悼するキャンドルサービスにより「声なき声」を聞こうという思いが凝集された開会式。オープニングでの国連アナン事務総長のメッセージを紹介するUNAIDSピーター・ピオット氏の演説。クロージングでは、クリントン前アメリカ合衆国大統領やマンデラ前南アフリカ共和国大統領の演説を紹介。スペイン厚生大臣の演説に対する出席者のブーイングのシーンや、世界各国のNGO展示ブースの様相。世界各地の人々が「すべての国に薬を」とシュプレヒコール

をあげながらデモ行進する模様等を、臨場感が伝わるようスライド映像、ビデオ映像やパワー・ポイントによる音声と映像で紹介。国際会議から持ち帰ったポスターの多数を展示し、内容を訳して紹介した。

◇来場者感想：軍事費にはお金を使うのに、すべての人が薬を使えるようにお金を。会場でのポスターや画像が豊富で視覚的に楽しめた。

◇連絡先：特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター06-6882-7800

声に出して読むこと。感想を口に出して皆に伝えること。それだけで自分の中に何かが残る。

HIV検査・相談マップの取り組みと検査まめ知識

◇主催：ライフ・エイズ・プロジェクト (LAP)

◇講師：今井光信、嶋貴子(厚労省HIV検査法・検査体制研究班、神奈川県衛生研究所ウイルス部)

司会：清水茂徳 (LAP代表)

◇ねらい：HIV検査受検希望者のニーズや検査の仕組み、最新の検査状況について紹介。参加者との意見交換を通じてよりよい検査環境作りを目指す。

◇ながれ：1) 主なHIV検査法の手順、原理、結果判定等の解説 2) NAT検査、迅速検査解説、試験的導入状況 3) ホームページ「HIV検査・相談マップ」紹介 4) アクセスログ解析からみる受検希望者のニーズ 5) 「HIV検査・相談マップ」

カードの紹介6) ホームページに寄せられた質問への回答 7) 質疑、ディスカッション

◇来場者感想：HIVの話をした後、心配している人や、悩んだときに検査や相談できる場所につながりやすいので、検査マップカードはとても良いなと思いました。是非使いたいと思います。(30代・男性・NGO/NPO) 保健所で検査出来る、ということを知らない人が多いのは残念に思います。更なるPRをしていただきたい(20代・男性・PWA)

◇連絡先：ライフ・エイズ・プロジェクト (LAP) 〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号 TEL03-5685-9716 FAX03-5685-9703

URL <http://www.lap.jp/>



学校や地域で役立つ朗読ワークショップ

◇主催：H.I.Voice Act

◇講師：岡島龍彦 藤江直樹 石原誉一

ねらい：感染者・患者や、その家族の様々な声を伝える通信誌「H. I. Voice」を活用したワークショップの手法を紹介し、参加者それぞれが、学校や地域、家庭で応用しHIV/AIDSについての理解を広げていくことを目的としました。

◇ながれ：今回は、学校の授業の中で実施する事例として、横浜市立城郷中学校の演劇部と、千葉県市川市立大洲中学校の保健委員の生徒さんたちの参加を得て、通常、学校で生徒参加の朗読劇場の事前ワークショップを再現してみました。

第1にリラックスすること。リラクゼーションで、アップテンポな体操(エナジー)で一気の一

体感を作ってしまうこと等。第2に楽しむこと。参加者全員が仲間探しゲーム等で、楽しく声を出すこと、耳をすますことに慣れること。そして最後に感じること。H. I. Voice誌の抜粋文章を、全員で輪読し、感想を発表し合いました。

◇来場者感想：◎今後の企画に新たな考えができました。(神奈川・40代・教育関係・女性)・声に出して読むこと。感想を口に出して皆に伝えること。それだけで自分の中に何かが残るし、人の意見も吸収でき十分な意味がある。(長野・20代・学生・女性)・AIDSの事、当事者と出会うことで、すごく身近なことと考えることができた。それを多くの方々に伝えていくやり方を今回取得できた。(30代・保健医療関係・女性)

映画「DRUG」

◇主催：社団法人神奈川県青少年協会

◇ねらい年々、増加の傾向を見せる覚せい剤利用者。その乱用は今や青少年にまで広く及んでいる。なぜ、薬物は危険と分っていながら青少年は薬物を使用してしまうのだろうか？この映画は大人の常識では分らなかった、青少年の薬物被害による実態がリアルに描かれている。青少年を薬物汚染から守るための啓蒙運動の一環、という目的はあるが、単なる教育的映画に止まらず、現代の若者流行の最先端から、青少年が抱えている問題までを取り上げたエンターテインメント作品に仕上がっている。

◇ながれ

映画「DRUG」の上映（1時間53分）

◇来場者感想

・とてもよい映画だった。感動しました。多くの人にってもらいたいです。・学校で放映すべき映画です。是非とも生徒たちに見せたい。・水谷氏の講演の後だったのでとてもリアリティを感じ

た。感動です。・実は不良です。麻薬・暴走族のことがよくわかりました。とても勉強になったな～と思いました。将来マジメにやろうと思った。いい映画だった。・薬物の恐さだけを単に訴えるだけでなく、全体の構成もしっかりとしてよかったと思います。・娘と一緒に映画を見ました。覚せい剤の恐ろしさだけでなく、人間が生きていくうえで基盤となる家族についても親として考えさせられる映画でした。・思春期の子どもを持つ親として親子で見てお互いに何かを感じ取れたらよいと思いました。・多少なりとも関係者（仕事柄）との認識からきました。本当に大人社会全体が反省しなければいけませんね。ありがとうございました。

◇連絡先：社団法人神奈川県青少年協会

〒222-0024 横浜市港北区篠原台町6-16

TEL：045-402-0346 FAX：045-402-0362

E-mail kya@netpro.ne.jp



避妊薬ピル—その副作用の実態を知る

◇主催：「エコロジー」と女性ネットワーク

◇講師：吉田由布子（「エコロジーと女性」ネットワークおよびHP「ピル110番」事務局）

ねらい：マスコミでは伝わらない避妊用ピル副作用の実態を、HP「ピル110番」に寄せられた情報、海外情報などから伝える。また、他の避妊法についても紹介する。

◇ながれ：ピルの一般的な作用や注意事項等の説明ののち、厚生省発表の副作用症例でもすでに重篤な例が出ていること、海外の副作用被害の状況、HP「ピル110番」に寄せられた副作用例や医師の対応の問題などを紹介。最後にピルに代わる避妊法として、コンドームの正しい使用と、自分のからだの状態を知って行う避妊法（ピリングズ法）をビデオで紹介。

◇参加者感想：ピルについて今までネガティブな

話はほとんど入ってこなかったで自分でも調べてみたいと思う（20代・女性）／日本では不利なことについてきちんと一般に知らせていないと思う。副作用について若い女性が読む雑誌にも載るとよいと思う（30代教育関係・女性）／正確な情報の提供をこれからも続けてほしい（30代保健医療関係・男性）／リスクが多いことにびっくりした。他の避妊法も考え、今後そういう立場に立ったとき、パートナーと良く相談していきたいと思う（10代学生・女性）

◇連絡先：273-0041 船橋市旭町2-22-18

吉田由布子 ホームページ「ピル110番」

[http://home.att.ne.jp/sea/pill-110yosida-](http://home.att.ne.jp/sea/pill-110yosida-y@tkd.att.ne.jp)

[y@tkd.att.ne.jp](http://home.att.ne.jp/sea/pill-110yosida-y@tkd.att.ne.jp)

日本では不利なことについてきちんと知らせていないと思う。副作用について若い女性が読む雑誌にも載るとよいと思う。

H.I.Voice朗読劇場—僕らのとなりのHIV

◇主催：H.I.Voice Act

◇協力：横浜市立城郷中学校演劇部、千葉県市川市立大洲中学校保健委員会

◇ねらい：午前中のワークショップの参加者の中から、有志をつり実際に学校で実施する朗読劇場を体験してもらうこと。

◇ながれ：2つのチームに分けて、生徒さんが中心になって実施する朗読劇場を、今年の3月に実際に取り上げた、横浜の中学校の生徒さんと、今年の10月に予定している市川の中学校の生徒さんが混成チームをつくり、月組、花組の2通りの台本で発表しました。この朗読劇場を聞いてもらった上で、会場の皆さんとこの朗読という手法の有効性や限界、注意すべき点などについて意見交換しました。そして最後は全員マッ

サージでニコニコ顔で終了しました。

◇感想：◎この会で友達もできたので感謝しています。（神奈川・10代・学生・女性）◎いろいろなことが分つたためになり楽しかった。（神奈川・10代・学生・男性）

◎とても楽しく新鮮でした。また参加したい。（千葉・10代・学生・女性）

◇連絡先

岡島龍彦 tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp できた。（30

代・保健医療関係・女性）





外国人HIV患者感染者のかかえる問題

◇主催:医療法人社団小林国際クリニック
院長小林米幸

◇ねらい:我が国におけるエイズ感染予防対策において外国人に対する対策が必要不可欠であること、外国人感染者と受け入れる医療機関、医師にとって言語、医療費の問題が大きいのしかかっている現状を理解してもらうこと。

◇内容:血液製剤による感染者を除外した我が国のHIV感染者についてその国籍を見ると男性では約30%、女性では約70%が外国籍である。さまざまな性の営みは国籍を越えて行われており、すなわち我が国の中でHIV感染予防対策を考えるにあたっては外国人に対する対策を抜きに語ることは適切ではない。外国人といってもその国籍はさまざまであり、対策は言語別にたてられるべきである。そのためにはどの国籍の人に感染者が多いのかを探らなければならないが、国籍が明らかになった場合はその国の出身者に対するいわれなき差別がおこらないよう気をつけねならない。

外国人が適切な医療を受けるに際しての問題点は言語、医療費、医療に関する風俗・習慣の差、インフォームド・コンセントや人権に配慮した医療の進め方であろう。とくにHIVという疾患の重大性を鑑みると告知、カウンセリングなどが適切に行われるかがポイントとなる。

◇来場者感想 今回のフォーラムに参加して「人権」や「社会的弱者」について考える機会が多くなったのではないだろうか。今回の場を単なる「エイズ問題の学習の場」として済ますのではなく、仮にエイズ問題とは接点の少ない日常生活においても「プライバシーを尊重すること」「人権に配慮すること」を実践してほしい。

とくにHIVという疾患の重大性を鑑みると告知、カウンセリングなどが適切に行われるかがポイントとなる。

AIDSにおける行政と民間の共働をめざして

◇主催:財団法人エイズ予防財団

◇講師:五島真理為、他。

◇ねらい:厚生労働科学研究の成果について、幅広く国民の理解と関心を深めるために、エイズ対策研究推進事業の一環として開催。

◇内容:エイズに関する普及啓発における非政府組織(NGO)の活用に関する研究における①AIDSNGOの活動実態 ②行政がどのようにAIDSNGOを活用しているか ③諸外国のAIDSNGOとその活用状

況 ④NGOと保健所と教育機関の連携による若者相互の啓発プログラム ⑤訪問栄養支援・口腔保健管理ニーズ調査、等について発表し、行政とNGOの連携の在り方について来場者とディスカッションを交えた。

◇連絡先:

特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター
06-6882-7800

エイズ基礎講座①～⑤

◇主催: AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会
担当:岩室紳也・北山翔子

◇ねらい:HIV/AIDSに関する基礎的なことを学び、再確認する場の提供。特にHIV/AIDSについて学びにAIDS文化フォーラム in 横浜に会場した小中高生を積極的な対象とした。

◇ながれ:

・基礎講座① 全体編 エイズの歴史を振り返る1981カリフォルニアで5人がカリニ肺炎で死亡 1983血友病患者がカンジダ症などで死亡(エイズ患者第一号?) 1987神戸エイズパニック(日本人女性患者死亡)高知エイズパニック(女性の妊娠) 1989赤瀬範保氏、実名公表 1992平田豊氏、性交渉によるHIV感染公表 1994国際エイズ会議(横浜) 1996薬害エイズ和解 1998 TVドラマ「神様、もう少しだけ」

・基礎講座 ② HIVとAIDSの違い HIVに感染して、AIDSになって困ること(自分、友人・仲間、

夫・妻・パートナー、他人がHIV感染、あるいはAIDSになった場合あなたが困ることは?)

・基礎講座 ③ 予防編 感染経路再点検 感染経路は3つ。セックスでの感染を予防する方法は? 知識があれば感染を予防することができる? 感染予防を教える目的は?

・基礎講座 ④ コンドーム装着法(男性用、女性用)
・基礎講座 ⑤ 未来への課題 感染が増え続けている現状の直視 性感染症が生活習慣病と受け止められる環境づくり 国際的な視野でのエイズ対策 将来的な課題と目標 あなたの目標は?

◇連絡先: 岩室紳也 厚木市水引1-16-36

県立厚木病院泌尿器科
TEL 046-221-1570 FAX 046-222-7836
E-mail:shiniwamuro@nifty.ne.jp



若者を取りまく性とHIV/AIDSの情報環境

◇主催:CAI(Campus AIDS Interface)

協力:岩室紳也医師(CAI顧問)

◇ねらい:

意外と知られていない「若者は性について何を知っているか」について、性教育やHIV/AIDSの予防活動の現場に対し現状を若者の側から発信して、性教育の受け手(若者)と送り手(現場)をつなげる。

◇内容:

いま、現実には若者の周りにはいふれている性情報はいまだどんな状況にあるのか? CAIでは同じ若い世代のとしての視点からリサーチ結果を発表。アダルトビデオ・雑誌・インターネットの三つのジャンルからアプローチし、岩室医師との掛け合いの中で性教育の送り手からの生の反応を引き出し、実際の記事やデータをレジュ

メで配り、インターネットに接続してアダルト画像のサイトにアクセスする様子を会場の参加者に見てもらって実感してもらいました。

◇来場者感想:

- ・若者を取りまく性の情報環境についてよくわかった。
- ・学生の側からこういう発表があることはすばらしい。
- ・今回は男性誌(男性向けの情報)が対象だったのでぜひ今度は女性誌の調査も発表して欲しい。
- ・HIV/AIDSの問題とのつながりをもうすこし明確にしてほしい(テーマ名にあるので)

◇連絡先:<http://www22.present.to/~cai/>



神戸会議にユースフォーラムを!!

◇主催:神戸エイズ会議にユースフォーラムを実現する会

◇講師:要友紀子、水島希

◇ねらい:第六回アジア・太平洋地域エイズ国際会議(2001年10月メルボルン)で開かれたユースによるユースのためのユースフォーラム、そして、今年7月のバルセロナ会議でのユースフォーラムと、近年ユースの活動やアクションが活発化し、また重要視されてきている。こうした動きを神戸会議につなげたい。そこで、先の2つの国際会議におけるユースのプログラムや実践をユース参加者と共有し、ユース独自の問題意識と神戸会議にむけたインセンティブをブッシュ。

◇内容:メルボルン会議に参加したユースからの報告。メルボルン会議・バルセロナ会議でユース向けに配布された資料、バルセロナ会議におけるユースフォーラムのビデオ映像をみる。それをもとに感想を述べ合い、来年の開催国・日本の私たちユースは神戸会議で何をやりたいかを話しあった。

◇連絡先

youthforum2003@hotmail.com

現実に若者の周りにはいふれている性情報はいまだどんな状況にあるのか? CAIと同じ若い世代のとしての視点からリサーチ結果を発表。

「PWH/Aの社会参加を考える～いま、私たちに必要なもの、そして市民としてできる事～」

◇主催:JANP+(ジャンププラス)

◇ねらい:PWA/Hを生活者として把握しなおし、情報格差によるQOL=生活の質の差、社会的な諸事情による不利益を回避し、その改善を目指してPWA/Hのネットワークを構築する。

◇内容:

①JANP+(ジャンププラス)の紹介と基調提案:いまなぜHIV陽性者による全国ネットワークなのか～生活者としてPWH/Aをとらえなおす。

②PWH/Aスピーカー3名による発言。陽性告知から今まで。活動を起こす動機。今、生活者として自分たちPWH/Aを捉えなおす。●仕事をしつつしていくことの必要を感じるようになった自分。●自らの感染を語るの意味。PWH/Aから発信する「予防啓発」「活動支援=PWH/Aとして必要な医療情報・生活情報」「アドボケイト」の持つ可能性と重要性。

③質疑・討議・感想発表(主な会場からの発言を紹介)

●こうしたフォーラムに来る人々はエイズに対しての意識や関心の高い人たちのみだから、HIV陽性者オンリーのパートと公開のパートをそれぞれ持つことは大変心外であった。前のパートが感染者限定にされたことで大勢の人が集まったのに締め出された。感染者以外の人を締め出さず、私たちが色々な感染者に会えるようにしてもらいたい。●感染者が社会進出をするとい

うことは、差別的状況を恐れて感染を名乗れない状況を抱える人にプレッシャーを与える存在にすらなる。●薬害訴訟にすら膨大な勇気とエネルギーは存在した。性とモラルと道徳が渾然一体化されがちな現状で、性感染症としてHIVは未だ明るくおおらかに語りだせていないのではないか。

◇来場者感想 ●自分以外の感染者の意見が開けてよかった。会場からの発言を聞いていて、関東の人が感染者に対して「変に熱い」事にとまどった。感染者の都合もかまわず何でもOPENという発想が出来る位、差別問題の解消が進んでいると言うことなのか...だとしたらある意味うらやましい。(30代、男性、NGO) ●「生の声を聞く」というのは、とても自分に訴えるものがありました。参加者とのやりとりもすごく良かったです。(10代、女性、学生) ●パネリストの発言にもありましたが、感染者がわざわざこのような場で発言する必要がない社会が早く実現すると良いと思った。(30代、男性、保健医療)

◇連絡先

連絡先 JANP+事務所 〒160-0014 東京都新宿区内藤町1-7ホトクビル402

TEL 03-5367-8558 FAX 03-5367-8559 E-mail:

info@janplusplus.jp HP:<http://www.janplusplus.jp/>



■ 展示

神奈川県衛生部保健予防課

◇内容

保健所をもっと身近に感じて、いろいろな相談をしたり、検査を受けてもらえるようにしたくて、保健所の保健師等がエイズ・性感染症のパンフレットやオリジナルグッズの配布、及びかながわレッドリボンパッチの販売をしました。若者向きのパンフレットには学校の先生方の要望が多く、「授業で生徒に配るパンフレットがほしい。」とか、「母親が子ども見せるのはどのパンフレットが良いの？」等の声に答ました。また、エイズ予防財団から配

布されている「エイズ啓発用DVD」をイベントに活用できますので、DVDの詳しい内容や貸出については保健予防課までお問い合わせください。

◇連絡先 〒231-8588(住所表記不要)

神奈川県衛生部保健予防課エイズ・感染症対策班
横浜市中区日本大通1

TEL:045-210-5117 FAX:045-210-8863



保健所をもっと身近に感じてもらえるようにしたくて、保健師がエイズ・性感染症のパンフレットやオリジナルグッズの配布をしました。

特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター

◇内容

HIVと人権・情報センターの活動案内展示

展示内容:今年で創立15年目になるHIVと人権・情報センターのオリジナルグッズ(レッドリボンピンパッチやレッドリボンをあしらった缶バッジ等)やパンフレット、出版物を展示販売。無料のポストカードやポスターなどを訪れた人に配布した。

◇連絡先

特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター06-6882-7800

特定非営利活動法人ぷれいす東京

◇内容

1994年から感染者の直接支援、予防啓発、研究動等を行っています。今年は企業と連携した若者むけコンドームパッケージPopteenとタイの感染女性たちとの共同事業レッドノット製作のティディベア、それに内容のぎっしりつまった活動報告書、ニュースレター、「安心できるともっと感じる・ハガキシリーズ」等を机いっば

いに広げました。なつかしい顔が尋ねてくれたり、ニューフェースの面々に刺激をうけたり、アットホームな展示会場で、楽しく交流を深めることができました。

◇連絡先〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-22-46-304

TEL:03-3361-8964 FAX:03-3361-8835

URL:http://www/ptokyo.com/

e-mail:ptokyo@gol.com

国境なき医師団日本

◇内容

「必須医薬品キャンペーン」について説明したパネルを展示

その他、パンフレット、ニュースレター等資料の配布と物品販売等を行った。

◇連絡先:国境なき医師団日本 〒161-0033 東京都新宿区下落合2-4-10

TEL:03-5988-0560 FAX:03-5988-0561



CAI

◇CAIの活動紹介とオリジナルパッケージコンドームの無料配布および、Tシャツ販売を行った。他団体の若者と知り合える機会になり、今後ネットワークの充実を図りたい。また、神戸ICAAPのユースフォーラム東京に協力しアクセス窓口となった。

◇連絡先

<http://www22.presen.to/~cai/>

ライフ・エイズ・プロジェクト(LAP)

LAPはPHA(HIV感染者・患者)のためのサポートグループとして1993年2月に発足したNGOです。今回の展示ではHIVに関する最新情報やPHAのための生活情報などを掲載したLAPニュースレターの無料配付・販売、「HIV検査・相談マップ」カード等、各種資料の配付を行いました。またセーフターセックスの普及・啓発のために性行為の描かれたカードをHIV感染のリスクが高いものから低いものへと順に並べかえる「リスク・スケールづくり」の実習を希望者を実施しました。

◇連絡先：ライフ・エイズ・プロジェクト(LAP)

〒100-8691

東京中央郵便局私書箱490号

TEL 03-5685-9716

FAX 03-5685-9703

URL <http://www.lap.jp/>

E-mail lap@lapjp.org



“人間と性”教育研究協議会かながわサークル

私たち、性教協かながわサークルは、子どもたちへの性教育の必要性を切実に感じている仲間が集まり、学習や教材研究など行いつつ性教育の実践を行っています。当日は、その実践の一部を展示しました。また、横浜市女性協会市民活動・研究助成事業の報告集「性と生の学びあい」の冊子を紹介しました。

◇連絡先：鎌倉市梶原1-18-2 鎌田方

かながわレッドリボンプラザ

かながわレッドリボンプラザは神奈川県から委託され、HIV/AIDSに関する講座の運営、情報提供、ニュースレターの発行を行っています。今回は、かながわエイズボランティア育成講座の様子やひらつか七夕まつり会場内エイズ予防財団のブースでのエイズ予防啓発活動の写真を展示しました。また、かながわレッドリボンプラ

ザのリーフレット、7月に発行されたニュースレターの配布も行いました。

◇連絡先：横浜YMCA 〒231-8458

横浜市中区常磐町1-7 2階NPOサポートセンター内

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

ふれきしぶる(ユニセフ支援市民グループ)

家族愛や友情を背景に、子どもの人身売買、児童労働、買春、エイズ問題を提示している絵本『子どもの権利を買わないで』(自由国民社)の一部パネル展示と同絵本の販売をしました。主人公のブンとミーチャは、監視が居眠りしている間に売春宿を逃げ出します。保護された後ミーチャはエイズに感染していることがわかりその後亡くなります。ブンは自分の体験したことを伝え

るため、村の子どもたちと話します。この絵本の説明に熱心に耳を傾けて頂いた皆様と良い交流ができました。一人一人の理解から変化が生まれると確信しています。

◇連絡先：〒236-0046

横浜市金沢区釜利谷西3-35-6

TEL/FAX 045-785-9510

E-mail flexible@mail.goo.ne.jp

ミーチャはエイズに感染していることがわかりその後亡くなります。ブンは自分の体験したことを伝えるため、村の子どもたちと話します。



2002年(平成14年)8月3日 土曜日

神奈川新聞

有森さん支援訴え

AIDS文化フォーラム 横浜であすまで講座

「2002 AIDS文化フォーラム in 横浜」が

二日、かながわ県民センター(横浜市神奈川区)で始まった。横浜YMCAや横浜商工会議所など五団体による同組織委員会の主催。「つながる つながる」をテーマに四日までの日程で

約六十のプログラムが設定されている。

フォーラムは一九九四年に横浜で「第十回エイズ国際会議」が開かれたのをきっかけに、「市民に開かれた会議を市民の手で」をコンセプトに民間団体を中心に委員会を組織。すべてボランティアによる市民フォーラムとして運営されており、今回で九回目。

初日は開会式に続きオンラインピクメタリストの馬拉ソンランナー・有森裕子さんが「カンボジアのエイズ」と題し「特別講演&トーク」を展開。有森さんは国連人口基金親善大使としてカンボジアなどでエイズ予防対策の支援に取り組んでお

り、現地のエイズやHIVの認識について説明。「自分のこと、自分の生活を考えた上で少しでもできることがあれば協力してください」と呼び掛けた。

センター一階の展示場では、横浜AIDS市民活動センターなど二十一団体が出展。三、四日は、「これからのエイズ・性教育」や「アジア太平洋地域エイズ国際会議とNGO」をテーマにした基礎講座やワークショップが予定されている。四日の全大会・閉会式では、フォーラム全体の総括や来年に神戸市で開かれる第七回アジア太平洋地域エイズ国際会議に向けての意見発表が行われる。問い合わせは、横浜YMCA ☎045(662)3721。(報道部・森川 浩次)



講演する有森裕子さん(左)
=かながわ県民センター

■9年の歩み(開催の概要と経緯)

年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	2000年	2001年	2002年
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9
会場	神奈川県国際交流協会			かながわ県民センター					
開催日数	8日間	3日間							
開催テーマ	市民と海外NGOによるAIDS会議	ともに生きる	ともに生きるから連帯へ	未来へのつどい	エンパワメント自立と共働に向け	いまを生きる	いま、一人ひとりができること	いま、一人ひとりができること	つながるつながる
プログラム数	会場内58	31	34	72	76	70	64	72	81
実施主体	個別プログラム毎に責任を持つ + 実行委員会企画を加えテーマを深める								
話題		母親が語る薬害エイズ	性風俗とAIDS	映画・秋桜	TV神様もう少しだけ	複数の作家の写真展	女性プログラム	バリアについて考える	有森裕子さん、国際、神戸会議
	PLWHAの主體的な参加								
入場者数	4,305	2,200	1,600	4,607	5,694	3,240	3,801	3,946	4,808
特徴	感染経路を問わず、エイズとそれをとりまく状況を、多様に考えていく								
市民版AIDS会議として		参加者の減少傾向	参加者の増加傾向	減少	安定	安定	安定	増加	
参加団体	東京の団体が中心	国際会議をきっかけとした市民グループの参加	様々な市民活動グループの参加	呼び掛けも行う	テーマに沿ったプログラムを実現するために意図的な参加	特に国際NGOへの参加呼びかけ			
来場者	会議参加者と一般市民	地元の市民中心	全国からの参加	医療・教育関係者の増加	一般参加者の減少	全国からの専門職の増加	再び増加	国際NGOの参加	
広報	ポスターパンフレット			プログラム表を全国の保健所、エイズ教育指定校に配布			ホームページのスタート		
マスコミ	取り上げ	減少傾向	夏の定番記事として取り上げ						
社会背景	アジアで初の国際会議	薬害エイズの報道増加	薬害エイズの和解	カクテル療法	障害者認定	ピル解禁、感染症予防法	女性用コンドーム、薬害乱用も	ハンセン病	SARS
組織委員	エイズに取り組む民間団体が構成し、フォーラムの責任を負う								
運営委員	約50名	約15名	約17名	約19名	約20名	約20名	約20名	約20名	15名
運営委員の構成	プログラム参加団体	医療関係とHIV/AIDSに係わるボランティア団体中心			HIV/AIDS関係活動以外のボランティア経験者も参加				
運営委員会開催状況	3回	4回	約15回(年間通しての開催) 小委員会も開催						
ボランティア	会場運営に市民ボランティアを公募								
	かながわエイズボランティア講座(県からYMCAに委託)								
	かわさきエイズボランティア講座(川崎市事業)								
	夏休みの学生ボランティア増加						中学生ボランティア増加		
	ボランティア担当実行委員				チーフボランティア制				
事務局	横浜YMCA								
課題	継続	社会的関心の低下・入場者減		ボランティアコーディネート		内容と対象の明確化		マンネリ化	マンネリ打破の改革



「思い」をもちよって、わかりあって、パワーをもちよって、ネットワークをつくって、「思い」を実現する...それがフォーラム。



■「AIDS文化フォーラムin横浜」の考え方

◎概要

AIDS文化フォーラムは、HIV/AIDSに関わる市民による市民のための手づくりフォーラムとして、参加する一人ひとりが、「資源・知恵・出来る事・手法」を持ち寄って回を重ねてきています。様々な立場で参加する個人・団体が、お互いが目指していることを実現するために、それぞれが運営主体として、「情報修得・交換の場」「交流を広げ・深める場」「活動発表と意見交換の場」を一緒に創り上げています。

※お互いの資源を持ち寄ることで『思い』を実現する

◎目的

エンパワーメントすること。HIV/AIDSの持つ医学・社会・文化・国際的課題を、一人ひとりが自らのものとして、多様な価値観と文化を認め合いながら集うことで、新たな力（「気づき」と「やる気」）を得て、それぞれが地域、世界にアプローチしていきます。

バリアフリーの社会をつくること。だれでもがHIV感染する可能性を持つことを前提に、生きることを考え、HIV/AIDSを通じた学びを入口として、住みやすい環境を作るアクションを起こします。

※エンパワーメント/多様な価値観と文化を認め集い力を得る

※バリアフリー/HIV/AIDSからの学びを活かした環境を作る

◎経過

このAIDS文化フォーラムは、1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議に連動して始まった市民版のエイズ会議として、多くの評価を得ました。その後も、毎年夏の恒例イベントとして、横浜で継続して開催されてきました。HIV/AIDSの問題を単に医療問題としてだけとらえるのではなく、幅広い市民の視点で、世界の問題、人権の問題、そして自らの問題として、様々な側面からアプローチすることで、より多くの人たちの理解を促進するとともに、医療・教育・ボランティアの現場で専門的に関わってきた人たちにも、新たな「気づき」と「やる気」の生まれる場を提供してきました。

※継続の場が新たな「気づき」と「やる気」を生む

◎構成

HIV/AIDSに取り組む地域の民間団体が構成する「組織委員会」がこのフォーラムの責任を担います。HIV/AIDSに関わる市民（※1）で構成される「運営委員会」がフォーラム全般の企画・運営を受け持ちます。横浜YMCAが「事務局」として調整・連絡機能を担います。「行政（県・市）」は協働の立場で、会場提供、広報などを行います。そして個々の参加プログラムは「参加団体」が、そのプログラムについての企画・広報・実施の全てを責任持って行います。またこのフォーラムの会場運営の全般は、幅広い世代の「ボランティア」が支えます。

こうして用意した場に、全国から数千人の「参加者」を迎え、参加者はこの場で得た情報・スキル・ネットワークを全国各地に持ち帰ることになります。

※ さまざまな立場が協働して、このフォーラムを支えます

◎経費

フォーラムの全体運営の経費は、毎年、単年度予算として、団体からの助成金や個人的な寄付金に支えられています。各参加団体には、自分達で入場無料プログラムを独立採算で実施してもらいます。（参加団体は自分達の資金で講師謝礼やスタッフ交通費などを賄います。フォーラムから各団体への資金援助はありませんが、助成金情報などを提供しています。反面、全体運営に必要な経費を参加費・会場費などの名目で徴集はしていません。）

※全体運営も参加プログラムも、それぞれが独立採算で実施しています

（※1）市民

ここでの市民とは、学生・社会人も、医療・教育・福祉の専門家も、行政のエイズ対策担当者も、NGO・NPOのスタッフも、感染している人やその家族も、自らの意思で、一人ひとりがボランティアとして対等に、このフォーラムに参画し、支え合うことを表しています。

※ボランティアとして対等に参画し支え合う幅広い市民のフォーラムです。

■フォーラムを支えた人たち

■組織委員会

神奈川県内でエイズ問題に取り組む、民間団体の代表者で構成されます。毎年、5月頃から10月にかけて結成されます。「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

メンバー（02年度）：

- ◇横浜商工会議所 川本譲次（代理 古田正一）
- ◇横浜青年会議所 肥田直樹
- ◇横浜いのちの電話 榊原高尋
- ◇横浜YWCA 八木高子
- ◇横浜YMCA 山根誠之（委員長）

■運営委員会

フォーラムの運営を組織委員会から委嘱されて活動するボランティアの集まりです。医師、看護婦、保健婦、組織委員会の担当者、共催・後援（行政）の担当者、ボランティアグループからの参加者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている方...etc いろいろな人がいます。

◇運営委員長 矢部尚美

◇副委員長 岩室紳也 吉永陽子

高村文子 岡島龍彦 吉永陽子 石黒幸栄 金井多恵 河西悦子 渡辺亨宏

渡辺詢子 長沢勲 矢部尚美 千代木ひかる

高橋亮（事務局） 大江浩（事務局）

■事務局：

◇横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営を助け、年度を越えての継続的な開催を補佐します。

9年前にフォーラムを立ち上げる際、呼び掛け人となった横浜YMCAが、継続して事務局を務めています。 ◇担当：高橋亮・大江浩

■ボランティア

毎年、60～100名のボランティアが活躍しています。小学生から高齢者まで多くのボランティアが集まってくれました。

赤川悟 穴沢芳博 秋山さつき 安見謙一郎 飯島恵子 池田昌弘
 飯野なつみ 石井邦佳 一澤環 稲垣絵里 伊原光明 岩崎俊一 上田倫子
 上野智子 内河敦 大沢一重 大坪康代 大原康敏 岡村嶺 岡村駿
 加西陽子 北圭子 片山恵美子 後藤かよ子 上村大輔 川崎真奈
 木下優衣 倉方理恵 小林由佳 小林真静 小林勝 齊田真奈美 三箇景子
 品川朋仁 清水節子 鈴木奈々絵 鈴木さと子 高木とも子 高細玄一
 高橋弥陸 田中律子 丁子谷菜央 中澤光枝 永島育実 西川友理
 畠山雅行 前田恵 蒔野絵里子 松崎薫 松本宣子 松本武 松尾順子
 宮崎博和 村岡陽子 村山美由夏 望月早枝子 八木崇文 ヨシフィ
 吉永千尋 渡辺みどり 渡辺実奈美 渡辺弥生



一人ひとりができることを持ち寄ったらフォーラムができました。



AIDS文化フォーラム 運営委員会 発行

〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
横浜YMCA 内
フォーラム事務局

電話 045-662-3721
FAX 045-651-0169

<http://www.yokohamaymca.org/AIDS/>

2003年8月!
また、
お会いしましょう!!



AIDS文化フォーラムの考え方 (要約版)

AIDS文化フォーラムは、お互いの資源を持ち寄ることで『思い』を実現する場です。

1. 目的/エンパワーメントすること (多様な価値観と文化を認め集い力を得ます。) バリアフリーな環境をつくること (HIV/AIDSからの学びを活かします。)
2. 経過/国際会議以降の継続が新たな「気づき」と「やる気」を生んできました。
3. 構成/さまざまな立場が協働して、このフォーラムを支えます。
4. 経費/全体運営も参加プログラムも、それぞれが独立採算で実施しています。
5. 市民/ボランティアとして対等に参画し支え合う幅広い市民のフォーラムです。

■ 2003年予告!!

「第10回 AIDS文化フォーラムin横浜」
期日：2003年8月1日(金)～3日(日)
場所：かながわ県民センター (横浜駅西口徒歩5分)

- ◇横浜駅西口の会場にぶらっと来てみてください。入場無料、誰でもOK。
- ◇「ボランティアやってみようかな」という方は、事務局の横浜YMCAに問い合わせしてね。
- ◇エイズ/HIV啓発活動などをしている皆さん。皆さんの活動を広げてみませんか?
- ◇PWHAsの皆さん、一緒に考えましょう。
- ◇学校の先生、ぜひ来てください。時には生徒と一緒に学んでみましょう。
- ◇お医者さん、保健師さん、薬や医学の最前線レポートもあります。
- ◇人権問題、セクシュアリティ、社会問題などに興味のある方もどうぞ。「文化フォーラム」の文字はエイズを通してあらゆる人間活動に関わっていきたいという願いです。